

2019 年度 認定留学 留学報告書

国際交流学科 3 年

留学先：オーストラリア マッコーリー大学附属語学学校

留学期間：2019 年 8 月～2020 年 3 月

留学には長い間行きたいと思っていましたが、いつか必ずと思いつつもなかなか一歩を踏み出せずにいました。しかし、学生の中に自分自身を強くしたい、強みを見つけたいと思い、2 年生の春に長期留学を決意しました。最初は自分で決めたにもかかわらず、初めてのひとり暮らしを海外ですることや、ひとりきりで留学することへの不安が止まりませんでした。しかし、現地へ着くと、そこには私がずっと夢見ていた景色が広がっていました。昔から海外への憧れを抱いていた私には夢のような空間でした。しかし、楽しいことばかりではありませんでした。アジア人が多かったため、差別などは特にありませんでしたが、シドニーという土地に適応するまでに時間がかかりました。初日から携帯が使えず、ビジネス英語を喋る寮のスタッフの説明を理解できず、さらに英語もうまく通じず大変でした。最初は心配や不安から体調もすぐれず、毎日緊張しながら授業へ向かっていました。学校には中国人がたくさんいて、ほとんどが大学院へ進む人でした。日本にいる時は中国人のイメージと言えば、爆買いし、ルールを守らない、うるさいなどと悪いものばかりでした。しかし、実際は良い人たちが多く、一緒に宿題や課題を手助けし合ったりしました。他にも様々な国から勉強しに来ている人々がいて、私よりも年下の子が 1 人で留学しに来ているのを間近で見て、自分も負けてはいられないと思いました。

この留学で学んだことは、人種や文化に壁はないということです。私が通っていたマッコーリー大学にはそこまで多くの人種がいたわけではありませんが、本当に友人として、クラスメートとして仲良くしてくれる人と、そうではない人の二択でした。ほとんどが前者ですが、日本で学校に通っていても同じようにカンニングをしたり課題を写したりする人もいました。マッコーリー大学は難しい学校で苦勞している人を何度も見てきました。私も勉強や授業についていくのにかなり苦勞して、授業を 4 時間終えた後に、3 時間は加えて自習していました。そのおかげもあってか、毎回のクラスでは成績をトップで修めることができました。

夢に見ていた留学は楽しいこともありましたが、それ以上に辛いことも同じくらいありました。しかし、全てはなんとかなるというポジティブな精神や、努力し続ければ成果が出るということ、全てをこの半年間の留学が教えてくれました。また、様々な国から同じ時期に同じ学校へ留学しに来ていたクラスメートと出会えたことも一生の宝物になりました。日本でも留学で学んだことを生かして、これまで以上に頑張りたいと思います。